

《応募書類作成に当たっての留意事項》

【履歴書（様式第2号）】

1 「氏名」欄

本名をフルネームで記載する。旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで併記する。

2 「生年月日（歳）」欄

記入日現在における満年齢を記入する。

3 「学歴」の欄について

① 高等学校卒業以降について記入する。大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。）を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を記入する。

なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入する。

② 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記する。

③ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入する。この場合、登録番号等も併記する。外国における資格にあつては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記する。

④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入する。

⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載し、職歴についても同様に扱う。

4 「職歴」の欄について

① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を記入するとともに、職名、地位等についても明記する。

② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については（現在に至る）と記入する。

③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入する。

④ 過去における大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあつては、判定結果を含む。）を記入する。

また、過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入する。

⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記する。

⑥ 大学等における非常勤講師についても記載する。

5 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ① 記入時において所属する学会の名称を記入する。
- ② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入する。
- ③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入する。

6 「賞罰」欄

学会や出版社からの表彰、職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入する。

7 「職務の状況」の欄について

- ① 記入日現在における職務の状況について記入する。
- ② 大学等の教員の場合は、「勤務先」に大学等の名称、「職名」については「教授」「准教授」等の職位を、「専任等の別」については担当授業科目ごとに、「専任」（所属学部・学科の授業科目担当）「兼任」（所属学部・学科以外の授業科目担当）「兼任」（非常勤講師としての授業科目担当）のいずれかを記入する。
授業時間数は、担当科目の総授業時間数を記入する。（試験は含まない）
ただし、同一科目を複数クラス担当する場合は、「総授業時間数 × クラス数」を記入し、分担する場合は「担当時間 / 総授業時間数」を記入する。
また、備考欄に担当クラス数又は「分担」「オムニバス」等記入する。
なお、授業時間数は90分授業を2時間として計上する。
- ③ 大学等の教員以外の場合は、「担当授業科目」は空欄とし、「備考」欄に職務の実態がわかるように、適宜記入する。
ただし、大学等における非常勤講師がある場合は、上記②により記入する。
- ④ 各欄の幅については、記入しやすいよう適宜変更する。

8 末尾の「氏名」の押印は、本人の署名をもって代えることができる。

履 歴 書				記入時の満年齢を記入
(ふりがな) 氏 名	けんだい たろう 県大 太郎	性別	生年月日 (歳)	年 月 日生 (歳)
現 住 所	(〒739-2615) 広島県東広島市黒瀬春日野〇-〇			
勤務先所在地	(〒734-0003) 広島県広島市南区字品東〇-〇-〇			
連絡先電話番号	□□□-□□□□-□□□□			
連絡先メールアドレス	□□□□@〇〇〇〇〇			
学 歴				
年 月	事 項			
平成〇年 3 月 平成〇年 4 月 平成〇年 3 月	広島県立〇〇高等学校〇〇科卒業 〇〇大学医学部医学科入学 〇〇大学医学部医学科卒業 学士 (医学) 題目「_____」			
平成〇年 5 月 平成〇年 4 月 平成〇年 4 月 平成〇年 3 月	医籍登録 第〇〇号 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻修士課程入学 □□□University、UK (□□□大学) 留学 (平成〇年 10 月まで) 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻修士課程修了 修士 (〇〇学) 題目「_____」			
平成〇年 4 月 平成〇年 3 月 平成〇年 10 月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻博士課程入学 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻博士課程 [単位取得後退学] 〇〇大学大学院〇〇研究科 博士 (〇〇学) 題目「_____」			
職 歴				
年 月	事 項			
平成〇年 4 月 平成〇年 10 月 平成〇年 4 月	△△大学△△学部△△学科 助手 (平成〇年 3 月まで) 〇〇〇Institute、USA (〇〇〇研究所) 研究員 (平成〇年 3 月まで) ▽▽大学△△学部△△学科 講師 担当授業科目: 「〇〇学概論」「〇〇学演習」 (平成〇年 3 月まで)			
平成〇年〇月 令和〇年 4 月	大学設置・学校法人審議会の教員審査において〇〇大学〇〇学部〇〇学科専任准教授 「〇〇学概論」「〇〇学演習」の資格有りと判定 □□大学〇〇学部△△学科 准教授 (現在に至る)			
学会及び社会における活動等				
年 月	事 項			
平成〇年 4 月 平成〇年〇月 平成〇年度～ 平成〇年度	「学会活動」 日本〇〇学会会員 (現在に至る) 日本〇〇学会第〇回〇〇大会〇〇分科会において座長を務める 「研究活動」 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「〇〇に関する〇〇研究」研究代表者			

賞 罰 等						
年 月	事 項					
平成〇年 7 月	日本〇〇学会 ◇◇賞 受賞					
職 務 の 状 況						
勤務先名称	職 名	学部・学科等 (所属部局) の名称	担当授業科目			同一科目を 複数クラス 担当する場合
			授業科目名	専任等の別	授業時	
□□大学	准教授	〇〇学部△△学科	〇〇学概論	専任	30×2	2 クラス担当
□□大学	准教授	〇〇学部△△学科	〇〇学演習	専任	10/30	オムニバス
□□大学	准教授	〇〇学部△△学科	〇〇学実習	専任	60	
◇◇大学	非常勤講師	※※学部※※学科	〇〇学持論		30	
上記のとおり相違ありません。 令和 年 月 日						
			氏		印	

総授業時間数を記入（原則 15 回分）
 分担する場合は○/□と記入し、担当時間を明確にする。
 なお、授業時間は 90 分を 2 時間として計上する。

【教育研究業績書（様式3）】

1 この書類は、公募分野・担当予定授業科目に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び著書、学術論文等の業績について作成すること。

2 「氏名」の欄について

- ① 印は、本人の署名をもって代えることができる。
- ② 本名をフルネームで記載する。旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで併記する。

3 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

- ① 担当予定授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入する。
- ② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入する。
- ③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入する。
- ④ 「教育上の能力に関する事項」の例

ア 「1 教育方法の実践例」

- 授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等
- 司法研修所等の教育機関における教育経験

イ 「2 作成した教科書、教材」

- 授業や研修指導等で使用する著書、教材等

ウ 「3 教育上の能力に関する大学等の評価」

- 各大学における自己点検・評価での評価結果
- 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果

エ 「4 実務の経験を有する者についての特記事項」

- 大学から受け入れた実習生等に対する指導
- 日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等
- 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
- 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

オ 「5 その他」

- 修士・博士 学位指導実績、学位審査（主査・副査）の実績
- 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
- 国家試験問題の作成等

⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例

ア 「1 資格、免許」

- 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

イ 「2 特許等」

- 特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの

ウ 「3 実務の経験を有する者についての特記事項」

- 職務における実績・成果で担当予定授業科目に関連するもの
- 大学との共同研究
- 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- 各種審議会・行政委員会、各種ADR等の委員
- 行政機関における調査官等
- 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- 調査研究、留学、海外事情調査等
- 上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等

エ 「4 その他」

- 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- 論文の引用実績等
- 教育・研究等に関連するメディア掲載（識者コメント等）

⑥ 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦書等を必要に応じて添付する。

4 著書、学術論文等の業績について

① 記入時において未発表のものは記入できません。

② 「著書、学術論文等の名称」の項について

ア 研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入する。

イ 著書については出版された書籍とし、書名及びISBNコード、ISSNコードを記入する。

ウ 学術論文については、学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入する。学位論文については、その旨を明記すること。

エ その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入する。

オ 査読付きの論文については、題名の下に「(査読付)」と記載する。

カ 当該著書、学術論文等が外国語の場合、著書等名（共著の場合は本人担当部分の章、節、題名も含む）はその外国語で記入するとともに、（ ）書きで訳文（日本語訳）を記入する。応募者の母国語が日本語でない場合は、訳文（日本語訳）は必須ではないが、できる限り訳文（日本語訳）を記載すること。

③ 「単著・共著の別」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入する。「共著」で筆頭著者を務めた場合は「(FA)」、論文責任者を務めた場合は「(CA)」を付記する。

④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入する。

⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について

ア 著書については、発行所を記入する。

イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記する。

ウ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記する。

⑥ 「概要」の項について

ア 当該著書等の概要を 200 字程度で記入する。(英語の場合は 100 ワード程度、訳文(日本語訳)を付記する。応募者の母国語が日本語でない場合は、訳文(日本語訳)は必須ではないが、できる限り訳文(日本語訳)を記載すること。

イ 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名(下線を付すこと。)を含め著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏名)を当該著書等に記載された順に記入の上、当該研究成果の本人担当部分を記載する。

本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入すること。

(例:「共同研究につき本人担当部分抽出不可能」など)

本人担当部分をページ数等定量的に抽出することが困難な場合であっても、安易に担当部分抽出不可能とはせずに、「研究の〇〇〇〇部分を担当」等定性的な記述でも構わないので、できるだけ本人担当部分を積極的かつ明確に記載すること。

様式第3号（第4条関係）

教 育 研 究 業 績 書

英語の場合は、訳文（日本語訳）を付記する。
 応募者の母語が日本語でない場合は、訳文（日本語訳）は必須ではないが、できる限り訳文（日本語訳）を記載する

実施期間を項目ごとに、旧→新で記載
 （和暦又は西暦）

令和 ○年 ○月 ○日

氏名 県大 太郎 印

教育上の能力に関する事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 資格試験対策講座の実施 視聴覚教材を利用した講義	平成○年 4 月 ～ 現在 平成○年 4 月 ～ 現在	資格試験対策講座の企画・運営に従事し、合格率を○%から◇%へ向上させた。 「○○学」「△△学」を担当する上で、パワーポイントやビデオを用い、わかりやすい講義を展開している。
2 作成した教科書、教材 資格試験対策関連テキスト	平成○年 11 月	資格試験問題の内容を検討し、将来的展望も見据えて作問した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 教員業績評価 学生による授業評価	平成○年～ 平成○年	毎年実施される学生授業評価において、平均○点と高い評価を得ている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 高大連携講座	平成○年 8 月	高校生○名を対象に、大学の模擬授業を実施した。テーマ：※※※※※※※※
5 その他 ○○協会会○○委員 ※その他、大学院（修士・博士）研究指導実績、学位論文審査実績（主査・副査）があれば記入してください。	平成○年 4 月～ 平成○年 3 月	○○協会会における○○委員として○○を実施した。
職務上の実績に関する事項	年月日	概 要
1 資格、免許 医師免許	平成○年 5 月	医籍登録（第○○号）
2 特許等 ○○用装置 登録番号 XXXXXXXXXX	平成○年 12 月 （特許登録日）	○○のための○○用装置を共同開発した。 担当：○○の方法提案及び○○に関する実験・検証共同出願者：A、B、県大太郎、C、D
3 実務の経験を有する者についての特記事項 広島県○○審議会委員 ○○企業でのプロジェクト担当	平成○年 4 月～ 平成○年 3 月 平成○年 4 月～ 平成○年 3 月	学識経験者として就任 活動内容：○○○プロジェクトを実施。 （以下プロジェクトの活動内容を記載） ○○○・・・○○○ 役 割：○○○ 成 果：○○○・・・○○○
4 その他 論文引用実績 メディア掲載（識者コメント等を含む）		

発表順（昇順）に
通し番号をつけて記載

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) ① 書 名 (ISBN XXXXXXXXXX) 2 書 名 (ISSN XXXXXXXXXX) ※ シリーズもの（全集、講座、叢書 等）の 1 冊である場合は、表題の下段 に () 書きでシリーズ名及び当該巻 数を付記してください。	単著 共著	平成○年 7 月 平成○年 11 月	××書房 △△堂	○○○についての考察 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） A○判 全○ページ ○○○について解説した。 A○判 全○ページ 編者： ○○○○ 共著者：F、県大太郎、 G、H、I、J、K 本人担当部分：第 2 章第 3 節○○の方法 pp.73-98 を単著。
共著の場合、本人担当分として共著への 関わり方を積極的に記載してください。				
(学術論文) ①論文 A (査読付)	共著 (FA)	平成○年 2 月	○○研究 17 巻 1 号 pp.66-81	○○について検証し△△と なることを示唆した。 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） 本人担当部分：○○○～ 共著者：県大太郎、L、 M、N 他 7 名
筆頭著者の場合 (FA) 論文責任者の場合 (CA) 記載する				
② monograph B (査読付) (和訳)	共著 (CA)	平成○年 7 月	Journal vol.18 pp.127-131	○○のために□□の解析を 行った。 担当：研究立案、論文執筆、 全体のみまとめ 共著者：S、T、U、 <u>Taro Kendai</u>
3 monograph C (査読付) (和訳)	単著	平成○年 12 月	Journal vol.22 pp.21-29	○○の有効性を確認した。 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載）
4 ・ ・ ・ ・				
13 ○○○○○○○○ (博士論文)	単著	学位授与年月 日	学位授与大学名	○○・・・○○。 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載）
(その他) 【総説】 1 発表テーマ	共著	平成○年 1 月	△△センター研究報 告 20 号、pp.29-36	○○の有用性を検討した。 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） 本人担当部分：○○○～ 共著者：県大太郎、S、 Q、R
2 発表テーマ	単著	平成○年 3 月	○○大学△△学部紀 要第 7 号、pp.75-78	○○の影響を調査し、比較 検討した。 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載）

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
【国際学会発表】 ① paper (査読付) (和訳)	共著 (FA)	平成○年 5 月	International of Congress (Republic of Singapore)	○○の調査の結果、○○の 傾向が認められた。 (200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載) 本人担当部分：○○○～ 共同演者：Taro Kendai、 T、U ○○の影響を調査し、比較 検討した。 (200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載)
2 paper (査読付) (和訳)	共著 (CA)	平成○年 6 月	International of Congress (Canada)	○○○○～
【国内学会発表】 1 発表テーマ (査読付) 口頭発表	単著	平成○年 3 月	第○回△△学会 (大阪)	○○○○～
2 発表テーマ (査読付) 口頭発表	共著 (FA,CA)	平成○年 6 月	第○回××学会 (金沢市)	○○○○～
3 発表テーマ (ポスター発表)	単著	平成○年 6 月	第○回××学会 (山口市)	○○○○～
【その他】				
(内訳) ○著書 __冊 (うち、単著__冊、共著__冊) ○学術論文 __編 (うち、査読付__編、国際誌査読__編)、(英文__編、和文__編)、 (単著__編、共著__編)、(筆頭著者 (FA) __編、責任著者 (CA) __編) ○その他 __編 (雑誌、新聞寄稿等、公募分野に関連するもの) ○学会発表 国際学会 __編、国内学会発表 __編				

業績のまとめを記載